

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年5月16日

事業所名

Plus+days鳳校

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	パーティションで部屋を区切り、個別対応を行っている。 利用児童が多い時は、時間で区切り活動の部屋を分散させている。	
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%	送迎時可能な限り添乗員を付けて運行している。 マンツーマンでつけるように基準よりも多く配置している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	見通しがわかりやすく示されている。 個別課題の際には室内に間仕切りを置き個室の空間を保てるよう工夫している。 ロッカー・トイレ・スケジュール表等使い方や1日の流れを視覚的にわかりやすくするため張り出している。また、個別に合ったカード等も必要に応じて作成している。	外階段が雨の日滑りやすいため、防滑テープを貼る等対応を考える。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	トイレなどの水回りを清潔で使いやすいようにしている。 子ども達が触れる箇所は、退所後消毒を徹底している。子どもが口をつけた玩具等はその都度水洗いと消毒を行っている。月に1度は玩具全部消毒を行うよう心がけている。 プレイマットを敷き、防滑策を講じている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	職員間の共有ノートで状況を確認したり職員間で相談・連携をとったりすることができている。 朝礼、終礼で業務改善に対する話もやっている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	わからないとの回答が多い質問に対しては取り組みの活動内容を伝えていくように意識している。 結果を職員に共有している。	職員間への共有を行うが、日常的な確認や年度途中入職の方への周知が十分でないため、周知の徹底を行う。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	0%	ホームページで公開している。	年度途中の職員への周知が行き届いていないため、周知の徹底を行う。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75%	17%	外部評価はおこなっていないが、社内での評価制度を用いて評価を行っている。	年度途中の職員への周知が行き届いていないため、周知の徹底を行う。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	パートを含め職員全員が共通理解できるように実施されている。 定期的に研修を行い知識を高めている。 外部研修に参加した職員は、内容を職員へ共有している。 研修情報に関しての情報共有がある。	
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	施設長が職員と相談の上で課題を見つけ、支援計画の作成を行っている。	
11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75%	17%	職員間でノートを使って情報共有を行っている。	標準化されたマニュアルを策定していきたい。	
12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	事業所内研修でもそれぞれの支援項目の重要性について話があり、意識の共有を図った。		
13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	一人一人に合った支援が行われている。 支援計画を確認し、職員間で児相のようすを確認しながら支援内容を決めている。		
14 活動プログラムの立案をチームで行っている	92%	0%	職員同士しっかりと話し合い、情報共有や案の出し合いができている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	毎回子どもたちが楽しめる計画を立てている。 過去のプログラムを確認したり、担当した職員に話を聞いたりして固定化しないようにしている。 担当職員が固定化しないようにしている。	固定化しない中でも統一された支援に対する考え方や支援の目的をもって各自が対応できるよう、工夫をしていきたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	92%	0%	机上課題は個別、運動課題は集団と場面を分けて課題設定を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	92%	8%	朝礼を行いその日のスケジュール等を確認している。 共有ノートを活用し、出勤時には各自が目を通すようにしている。	イベント前は間に合っていないことが多々あるため、職員への業務分担を工夫して対応していく。 個別の机上課題に関しては共有が十分でないため、共有方法を考えて対応していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	終礼を行い、内容を共有ノートの書き留めて全員が目を通せるようにしている。 終礼に参加できない職員は共有したいことを他の職員に事前に伝達するようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	課題プリントにその日のようすやできていたこと等を記入していることで、次の活動の内容を考えやすくなっている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	92%	0%	職員間で話し合いつつ、子どもの日頃の様子や課題等についてモニタリング内容に繁栄させている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児発管が参加している。	児発管だけでなく、可能な限り職員も同行するようにする。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	92%	0%	機関相談や子相と必要に応じて連携、情報共有等を行い、本人支援・家族支援を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	58%	17%	該当の児童がいない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	67%	17%	該当の児童がいない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	92%	8%	送迎時に各校園との情報共有を行っている。 電話等を通して、子どもにとってよりよい環境や地域移行の可能性について保護者の意向を主軸に考えや情報の共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	75%	17%	当事業所で放デイに上がる児童に関しては、神学のタイミングで学校側や保護者のの要望に合わせて情報共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	75%	8%	センター研修は受講できなかったが、支援に精通した他事業所や他機関に相談し助言をいただいている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	42%	50%	地域の児童との交流の機会はもてていない。	交流できる機会をどのように生み出していくのか模索していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	50%	33%	地域自立支援協議会への参加はできていない。放課後連絡会にはできる限り参加して、地域のことや障害支援の動向について学ばせてもらっている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や電話を通して情報共有している。 送迎時保護者とお会いした際に伝達している。 日頃からできるようになったことをなるべく伝え、マイナスになるようなことは少しでもプラスに思ってもらえるように伝えるようにしている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	67%	17%	保護者会の中で支援に関する助言を行っている。 相談があった際や、子どものようすや保護者のようすから必要とすると感じられた時には、その都度保護者へ向けての助言、支援を行っている。		
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83%	0%	契約時に詳しく説明を行っている。 送迎時や対面で時間をとれなときは電話で詳しく伝えている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
33		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	83%	0%	ねらいや内容について丁寧な説明を心がけている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	相談があった際には職員間で共有し必ず助言を行えるようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	参観、保護者会を行い、保護者の方同士の連携の場をもつことができた。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	体制整備を行い、迅速・適切に対応できている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	月に一回会報を発行し、事業所内の掲示板にも貼り出しを行っている。SNSでの情報配信も行っている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	入職時、職員に秘密保持の同意書にサインをもらっている。利用者の写真掲載について同意書をもらうとともにそれぞれの意識について一覧表を作成して都度確認している。	子どものようすを撮影するときは社用スマートフォンで撮影するが、撮影用のデジカメの購入を検討する。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	子どもに対しては、それぞれの児童に合わせて写真やイラストカード、ハンドサイン等を用いて対応を行っている。保護者に対しては、言葉だけでなくアンケート用紙で要望を聞いたり、伝達事項を書面にも書き起こす等して対応している。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	42%	50%	現時点では行えていない。		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	83%	8%	職員へはSNSを用いた共有ノート等を通じて周知を行っている。	保護者に対しては、共有システムの活用等を行っていつでも確認いただけるような形式での公開も検討していきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	避難訓練を年2度行い、備蓄もそろえている。	子どもだけでなく職員が連携をとる練習のための訓練も実施を検討する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	てんかん発作持ちの児童のかかりつけ医や対応方法等はすぐに確認できる場所にファイリングされている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	92%	0%	アレルギーの有無についてフェイスシートで確認して一覧表を作成している。アレルギー食材を用いた調理活動は行わない。含まれる可能性がある場合は事前に保護者へ確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	記録があった際には周知を行い、各自が確認するようにしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	定期的に研修を行い、知識と意識を高めている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	67%	17%	該当の子どもはいない。	情報共有はおこなっているが、職員による意識の差を埋めるためにもさらに詳細な認識共有のためのツールを考えていく。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。